図書館だより

開館時間
9：00～18：00

5月の予定

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

- 休館日
- おはなし会
- ひろたのみんなのおはなし会
- にこにこほっぺのおはなし会

砥部町立図書館
☎（962）4400

新着紹介

『浅草迄』　北野　武
『いつの空にも星が出ていた』　佐藤多佳子
『きのうのオレンジ』　藤岡　陽子
『とわの庭』　小川　糸
『湖の女たち』　吉田　修一
『夢七日　夜を昼の國』　いとうせいこう
『みがわり』　青山　七恵
『コーチ』　堂場　瞬一
『たべる生活』　群　ようこ
『寂聴残された日々』　瀬戸内寂聴

『伊達女』
佐藤巌太郎
PHP 研究所　刊

男たちに示そう。たじろがない女の姿を。母・義姫、妻・愛姫、保姆・片倉喜多など、独眼竜政宗を照らし出す戦国の女たちの生き様を描いた連作短編集。『歴史街道』掲載に書き下ろしを加えて書籍化。

『白日』
月村　了衛
KADOKAWA　刊

出版社課長・秋吉の耳に、優等生だった幹部の息子が謎の転落死を遂げたとの報せが届く。「悼むに悼めない」社内事情とは？そして、志をもって教育事業を推進してきた秋吉の運命は？

『野菜たっぷり大量消費レシピ 304』
阪下　千恵
新星出版社　刊

野菜をたっぷり使い、メインとしてがっつり食べられる料理から、もう一品に最適な副菜、作りおきできるものまで、大量消費するレシピを304品提案。野菜データや冷蔵・冷凍の保存方法も紹介する。

役者　井上正夫

問社会教育課文化スポーツ係
☎（962）5952

5月7日から砥部焼を題材にした映画「未来へのかたち」が公開されます。

井上正夫も演劇「焔（ほのお）の人」という作品で砥部焼の窯だき職人を演じたことがあります。

「焔の人」は八木隆一郎作の演劇で、1938（昭和13）年11月、明治座で上演されました。八木はこの作品を書くため、砥部に滞在し窯場の見学をしたといいます。

井上は、平山碧山（窯元の主人）の下で働く由利雁市の役を演じています。雁市は碧山が亡くなった後、その息子、敬吾が量産への道を歩もうとするのに反対します。雁市の息子、儀市も同じ窯場で働いており、敬吾のやり方に見切りを付け、一緒に神戸へ出ようと雁市を誘いますが、雁市は断ります。職人であることを望み質の高い焼き物を作り出すことを目指して窯をたき続けていきます。

大正時代の初めを舞台にしたこの作品は、量産へ向かっていく当時の砥部焼業界を反映しているのではないかと言われています。

その頃、弟に宛てた井上の手紙には、「砥部の唐津山（砥部焼の窯元のこと）の芝居をやって居る、八木君のかいた脚本大評判」と書かれています。

井上は、祖父、小坂藤吉が砥部焼の陶工で、父、小坂春吉が砥部焼の商売をしていたこともあり、幼い頃から砥部焼になじみがあったため、砥部焼の作品に出演することが嬉しかったのではないでしょうか。

（学芸員　宮本直美）

「焔の人」（雁市役）

〈おわびと訂正〉
広報とべ４月号15ページ「高森三島神社本殿、附棟札（町指定建造物）」の写真に誤りがありました。訂正しおわび申し上げます。　正しい写真はこちら▶